

千島海溝南西部、海溝陸側斜面下部域の斜面崩壊地形の成因の検討

What process makes slope failures in the lower part of landward slope, the southwestern Kuril Trench

佐々木 智之 [1]; 辻野 匠 [2]; 川村 喜一郎 [3]; 岡村 行信 [4]; 玉木 賢策 [5]

tomoyuki sasaki[1]; Taqumi TuZino[2]; Kiichiro Kawamura[3]; Yukinobu Okamura[4]; Kensaku Tamaki[5]

[1] 東大 工学系 エネルギー資源フロンティア; [2] 産総研・地質; [3] 深田研; [4] 産総研 活断層研究センター; [5] 東大・工
[1] Frceer, Eng., Univ. of Tokyo; [2] GSJ/AIST; [3] FGI; [4] Active Fault Research Center, AIST, GSJ; [5] Graduate School of
Engineering, Univ. Tokyo

我々は、北海道南東沖の千島海溝南西部で2005年と2007年に海洋研究開発機構の調査船を使用した調査航海を行った。2005年の航海は、「かいいい」を使用した反射法探査と堆積物コアサンプリング、2007年は「よこすか」と「しんかい6500」を用いた潜航調査を主目的として、両航海ともに海溝の陸側斜面をターゲットにした調査観測であった。これらの航海中、両調査船に搭載されたマルチビーム音響測深機 SeaBeam2112 による精密海底地形の調査を時間の許す限り行って、旧式の測深機で取得された既存データの更新につとめた。

千島海溝南西部域では、1992年に東大海洋研の白鳳丸による広域調査が行われており、主にマルチビーム測深調査に基づいて、海溝の陸側と海側斜面の地形概要が報告されている (Ogawa et al., *Hakuho-Maru cruise report, 1993*)。我々は2005年、2007年に行った航海で得られた成果をもとにして、さらに詳細な解析を行い2008年地質学会で海溝陸側斜面の地形形態の解析結果について報告した。本ポスター発表では、特に、陸側斜面下部域でこれまで斜面崩壊地形、あるいは地すべり地形と考えら